

## 肥田舜太郎名誉理事長のご逝去にあたって

医療生協さいたまの名誉理事長・肥田舜太郎先生が、3月20日(月)午前8時2分、肺炎のために埼玉協同病院で逝去されました。100歳でした。

肥田先生は、1944年に陸軍軍医として広島に赴任し、翌年8月6日の原爆投下では自らも被爆しながら被爆者の救護にあたりました。戦後は、被爆者の医療と救済に取り組むとともに、国内にとどまらず海外30カ国以上で原爆被害の実相や内部被爆問題と核兵器の廃絶を訴え、平和運動・被爆者運動の先頭に立って活動をされてきました。

医師としての肥田先生は、患者の立場に立ち、地域住民と一緒に無差別平等の医療を実現するために奮闘し、全日本民主医療機関連合会の創立と発展のために貢献されました。埼玉では、1953年に行田協立診療所初代所長、1964年に浦和民主診療所初代所長、1978年に開設した埼玉協同病院の初代院長を務め、医療生協さいたまの礎を築いてこられました。

肥田先生は、診療の第一線から退いたのちにも、原爆症認定集団訴訟で証人として出廷し、長年の臨床経験や海外の文献をもとに入市被爆者の内部被爆が「がん」などの原因になったと証言を行い、原告勝訴の判決を引き出すことに貢献しました。また、海外や全国各地を精力的に廻って核廃絶を訴える肥田先生の姿は度々報道され、日本全国と世界で反核・平和を求めて活動する方々を励まし続けてきました。

私たちは、肥田舜太郎先生の思いを受け継ぎ、差別なく命が大切にされる社会と、核兵器のない平和な世界の実現のために努力していく所存です。

最後になりますが、ここに故人が生前中賜りました皆様のご厚誼に対して心より深く感謝を申し上げます。

2017年3月21日  
医療生協さいたま生活協同組合  
理事長 雪田慎二